

れいわ新選組 わかさとみひろの



柏市議会の舞台裏から

令和7年3月 市議会レポート VOL.7

柏市の不登校児童の数は令和5年度は936名（小学校347名・中学校589名）です。小中あわせて毎年約100名の不登校児童が増え続けています。なぜ不登校は増え続けるのか？実は**私の娘も2人とも4年前から不登校になりました**。4月から中学に入学するにあたり、同じ悩みを抱える保護者からお話を聞く機会も増えました。改めて柏市の不登校の実態を把握するため、次の方々にお話を伺いました。不登校児童の保護者39名、不登校児童6名、フリースクール等の団体5か所、不登校親の会2つ、スクールソーシャルワーカー2名です。保護者、児童、それを支えるフリースクール等の団体が**最も求めていることを3月議会で要望し、今すぐに出る取組みも市長へ提案**しました。



わかさ1問目 0:00 ~
教育長の答弁 17:48 ~
1問1答の質疑 28:50 ~



今回の一般質問の動画はコチラ↑

急増する不登校に 柏市は今、何ができるか

不登校児童の選択肢1 「教育支援センター」

柏市には、不登校児の学習支援や居場所としての機能をもつ5か所の教育支援センター（うち4か所は小学校内に設置）と、各中学校内に校内教育支援センターを配備しています。令和5年度の利用児童数は小中あわせて461名。不登校児童936名のうち約半数（475名）は利用していないことになります。ほとんどの教育支援センターは学校の中にあるため、そもそも学校に行けない児童にとっては、**学校という建物を見るだけで拒否**してしまったり、校門がくぐれなかったりで、ハードルが高いです。この**教育支援センターに行けない児童に対しての支援が必要**です。



写真：柏市公式 HP より

唯一、学校とは離れた場所にある教育支援センター「きぼうの園」

不登校児童の選択肢2 「フリースクール」

学校や教育支援センターに行けない児童の選択肢として、民間が運営するフリースクールがあります。フリースクールの利用料は月額3万~5万円が最も多く**経済的に厳しい家庭は利用したくても利用できません**。またフリースクールの事業者にも補助金や助成金制度がなく、継続が困難な状況です。保護者の利用料の助成金制度と、フリースクール事業者への補助金制度が必要と考えます。



柏市の「ある居場所」

不登校児童の選択肢3 「さまざまな居場所」

取材を続けていく中で、柏市の「ある居場所」を教えてくださいました。学校や教育支援センター、そしてフリースクールなどにも行けない児童と保護者が利用しています。**保護者同士が自ら一軒家を賃貸し「居場所」として運営**も行っています。利用しているかたが**命綱**とも言っているこの一軒家の居場所も**ボランティアだけでは継続が困難**です。

不登校児童・保護者・フリースクール事業者が最も求めていたこと

たくさんの当事者からお話を聞き、不登校の理由は、集団生活・友達関係・先生との関係・心身の理由・家庭環境など、すべて個別であり、複雑に事情が絡み合っているため、一括りには出来ないことが改めてわかりました。その中で**最も多かった意見は「自宅以外での居場所が欲しい」**ということでした。教育支援センターでもない、フリースクールでもない、親の会の延長線上のような場所……。児童も他者との関わりが好きなときに選べる場所です。それに最も適しているのが「**一軒家の居場所**」でした。しかし現在、保護者がボランティアで立ち上げた一軒家の居場所は数が少なく、遠方から車で30分以上かけて来ている人もいます。フリースクールの事業者は、不登校支援において最も重要なことは**小規模で子どもが無理なく通える距離**にあること、と話しています。一人でパソコンがしやすい場所や、複数人で遊べる場所など、それぞれの特色がある居場所の数を増やし、子どもが選べる数を増やすことが求められます。



提案!

**空き家か中古住宅を市が取得して
各中学校区に1つ一軒家の小規模な居場所
を設置してはどうか?**

柏市の空き家は令和4年度に実施された現地調査で1739件確認されました。所有者へのアンケート調査では**172件がまだ住める状態**と回答があります。この空き家もしくは中古住宅を市が取得して、小規模な居場所を設置する。運営は保護者か、過去に不登校を経験した保護者に**有償でお願いする仕組み**です。中学校区に1軒あればいつでも気軽に通える距離です。不登校の児童や保護者はこの「**自宅にいるようであり、他者とも関われる**」一軒家の居場所を最も求めており、議会で市長に提案しました。保護者は日頃の悩みを共有したり情報交換もできます。



市長の答弁

教育の機会を保障すること、居場所を作っていくことは本当に重要だと思っている。まずは小学校に校内教育支援センターを増やしていく。その上で今回の意見を基に更に研究をしていきたい。

そのほか柏市に要望したこと

不登校支援の情報一覧をHPに掲載してほしい

不登校になったときの選択肢にどんなものがあるか、相談先や居場所のきっかけにもなる親の会などの情報が不足しています。市のHPに掲載することで安心して相談できる選択肢が増えます。

フリースクール利用料の助成金制度を柏市にも!

荒川区やつくば市では月額2万円の助成、海老名市は月額1万5千円の助成など、他自治体では次々に利用料の助成金制度を実施しています。**経済的な理由で利用できない家庭のために**柏市でもすぐに始めてほしいです。

中学卒業後の支援を行ってほしい

不登校のまま中学を卒業する児童や、高校から不登校になる児童もいます。**中学を卒業したら急に社会に放り出されてしまう**のです。中学卒業後の不登校相談窓口をつくってほしいと要望しました。

不登校児童と保護者を支えるフリースクールなどの支援団体に補助金を!

市原市では令和7年度よりフリースクール事業者への補助金制度が始まります。不登校を支える事業者や団体に継続してもらおうための制度と、これから事業を始めたいという方への支援も急務です。

「歩く困りごとの窓口」としてお気軽にご相談ください!

柏市議会議員 わかさ ともひろ

会派：市民サイド

委員会：総務市民委員会、広報委員会



お問い合わせ＆わかさともひろを知る

プロフィール

わかさともひろ (51歳)
中1・小5の娘と暮らす
シングルファザー

1973年秋田県生まれ。柏市花野井在住。

税務署、財務省(旧大蔵省)、劇団主宰、俳優業、広告代理店の営業マン、森の幼稚園事業、ハウスクリーニング、電気工事(ひとり親方)など、経験した職業は19種類。命や人の優しさ、表現することを大切にしています。

わかさともひろ事務所

柏市花野井 720-177

✉ wakasatomohiro50@gmail.com

「柏市のタケコプター」メンバー募集中です!

